

○ 小学校理科 第6学年 ①  
「ものが燃えるとき」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点			
			関意	思表	技	知理
(1)	物が燃えた後の空気は、物が燃える前の空気と比べると、酸素や二酸化炭素の割合が変化していることを読み取っているかをみる。	第6学年 A 物質・エネルギー (1) 燃焼の仕組み 物を燃やし、物や空気の変化を調べ、燃焼の仕組みについての考えをもつことができるようにする。 ア 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。			○	○
(2)	物が燃えた後の空気は、物が燃える前の空気と比べると、酸素や二酸化炭素の割合が変化していることを、表をもとに説明できるかをみる。		○			
(3)	表をもとに物が燃えた後の酸素の割合を読み取り、物が燃えた後でもまだ酸素が存在することを判断できたかをみる。		○			
(4)	七輪の木炭をよく燃やすためには空気が入れかわるようにしなければならないことを理解できたかをみる。		○			○
(5)	七輪の炭をよく燃やすためには空気が入れかわるようにしなければならないことを理解し、それを他のことにも適用できるかをみる。		○			